



中央ウェイ

8月号

「2025年デフリンピックに向けて」

主幹教諭 竹見 昌久

今回は2025年東京で開催が決定したデフリンピックに向けた取り組みについて触れたいと思います。

私は現在、一般社団法人日本デフ陸上競技協会の役員を担っており、東京都のデフリンピック担当者と共に2025年に向けて、陸上競技のメイン担当として準備を進めています。デフリンピック組織員会はすでに立ち上がっており、全21競技すべてに担当者がついて、宿泊、輸送、機運醸成、医療、など東京都の職員がそれぞれ担当を担いながら動き始めています。また、国会議員でもデフリンピック議員連盟が設立され、国としてもデフリンピックの支援を後押しするべく議論が始まっています。私は陸上競技を担当するため、日本陸上競技連盟、東京陸上競技協会を中心に日々やりとりをしていますが、イベント会社やテレビ局とも密に連携を図り、デフリンピックをどのように見せていくか、デフスポーツの魅力発信に向けたアイデアを出しあっているところです。

そんな中、デフリンピックに先駆けて今年11月に陸上競技のテストイベントを開催します。大会名は「WORLD DEAFNATION for Athletics 2023」で今回は陸上競技のデフ国際イベントとなります。現在のところ、12か国50名弱の海外デフアスリートの来日が決まっており、その中には現在戦時下にあるウクライナの選手団11名が来日予定です。多くのマスコミにもリリースをしているため、すでに何社かの取材が入り、ネットでのライブ中継も実施予定です。手話通訳士を大型スクリーンに映しだしたり、大きなLED表示板を競技場中央に配置し字幕を表示したり、来場者が一目でデフの大会であることがわかるように現在準備を進めています。ポスターも完成し、全国のろう学校や東京都の学校すべてに配付をしました。当日は多くの来場者がくることを期待し、今後も広報活動を進めてまいります。

また、このテストイベントで来日するウクライナ選手と本校生徒が交流するイベントも、11月2日の5・6校時に実施予定です。本校生徒にとっても貴重な経験になることと思います。詳細については後日プリント等でお知らせいたします。2025年に向けて、今後はもっとろう学校を巻き込んだ取り組みが増えていくことになりませんが、デフリンピックをスポーツの祭典だけにとどめることなく、聴覚障害

者の理解啓発、そして課題解決につなげていくこと、2025年デフリンピックが終わった後にはもっと聴覚障害者が住みやすい世の中になるようにしていかなければと感じています。



11月のテストイベントポスター

昨年ブラジルデフリンピックでウクライナ選手と。

真ん中4名の選手を含む11名が来日します